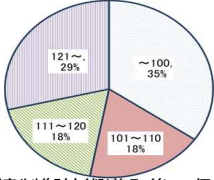


様式2 基本計画シート

課題NO	重点ー1	課題名	日本一のナス産地の維持・拡大				
対象	ナス部会（JA高知県安芸地区園芸研究会）			実施期間	令和2年度～令和5年度		
対象の概要と問題点及びあるべき姿							
1 対象の概要・問題点							
冬春ナスの生産量日本一を誇る安芸地域では、これまで「土佐鷹」に代表される県育成高品質ナスの普及に取り組 み、「ナス品質向上推進協議会」を組織し高品質化を目指してきた。H28園芸年度からの出荷コード統一により品種の 優位性が発揮できず栽培面積は伸び悩んでいたが、農家から県育成品種の良さが見直され、数年前から「慎太郎」の 栽培面積が増加傾向にある。しかし依然として「つやなし果」の発生など春先以降の果実品質の低下に対し市場から 改善を求められており、その対策が急務となっている。 環境制御技術の普及促進では「環境測定装置」、「炭酸ガス発生機」、点滴チューブによる「日射比例灌水装置」 等が普及し20%以上の増収効果が確認された生産者もいる。一方、炭酸ガス施用技術等の導入農家間には格差があり、 環境制御機器等の導入前後の収量を比較（前H28年と後H30年比較）すると増収につながっていない農家が35%見られ る。環境制御機器等の導入および利用には、10a当たり年間26万円程度の経費がかかることから、10a当たり約1t以上 （現状収量の5～7%増、H31園芸年度単価275円で試算）の増収が最低限必要である。 新規就農者の確保・育成は、産地の維持・発展面から喫緊の課題で、各市町村の担い手育成支援協議会が主体とな り就農支援体制を整備し、新規就農者の確保及び営農定着への支援を行っている。しかし、まだ栽培技術等が十分で なく経営的に不安定な新規就農者も見られる。 以上のことから、収量及び品質向上対策を強化するとともに、担い手である新規就農者の経営の早期安定化を支援 することで、質・量とも日本一の冬春ナス産地を維持、拡大するため次の項目に取り組む。							
JA高知県安芸地区園芸研究会ナス部会における栽培実績の推移							
	H29 園芸年度	H30 園芸年度	H31（R1） 園芸年度	R2 園芸年度			
総栽培面積（ha）	141.0	139.7	137.1	140.5			
総出荷量（t）	18,548	18,008	19,475	18,996			
平均出荷量（t/10a）	13.2	12.9	14.2	13.5			
JA高知県安芸地区調べ							
環境制御技術導入後の収量比 （H28年：H30年比較（153戸）・JA調べ）							
2 目標年次の姿（目指すべき姿）							
・収量、品質の向上により市場・消費者から信頼され、選ばれるために産地力の強化を目指す。 ・新規就農者をはじめ生産者全体の栽培技術の向上によって、増収や品質改善を図り産地を維持拡大する。							
新規就農者（サポートハウス等）の収量目標（10a当たり）							
	就農1年目	就農2年目	就農3年目				
反収（1月～12月）	3.8t	16t	17t				
<推進方向>							
1 収量、品質の向上のため、関係機関と連携し増収技術や新たな課題に対応した栽培管理を普及させる。 2 産地の担い手を育成するため、新規就農者への支援を強化する。							
普及事項		取り組み期間と到達目標					
		評価項目	実施前	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
1 データ活用による収量、品質の向上のための栽培技術の普及 (1) IOPクラウド「SAWACHI」稼働に向けた実証		IOPプロジェクト協力農家のクラウド利用（栽培管理へのデータ活用）	0戸	—	33戸	33戸	
(2) データ駆動型農業の実践支援							
(1) 収量品質向上対策							
①②環境制御技術指導		目標収量達成者戸数 ※農家ごとに目標を設定	0戸	20戸 12戸	20戸	20戸	20戸
②①生理障害果（つやなし果）低減対策		つやなし果発生率10%5%以下低減対策実施モデルほ場	0戸	20戸 19戸	20戸	20戸	20戸
2 収量・品質向上のための栽培技術の普及				30戸 38戸	30戸	30戸	30戸
(1) 難防除病害対策		防除対策実施農家数	0戸				
3 新規就農者の育成							
(1) 栽培管理技術・経営管理能力の向上		経営目標達成者の割合 ※目標収量達成率	67%	100% 56% (11戸/19戸)	100%	100%	100%